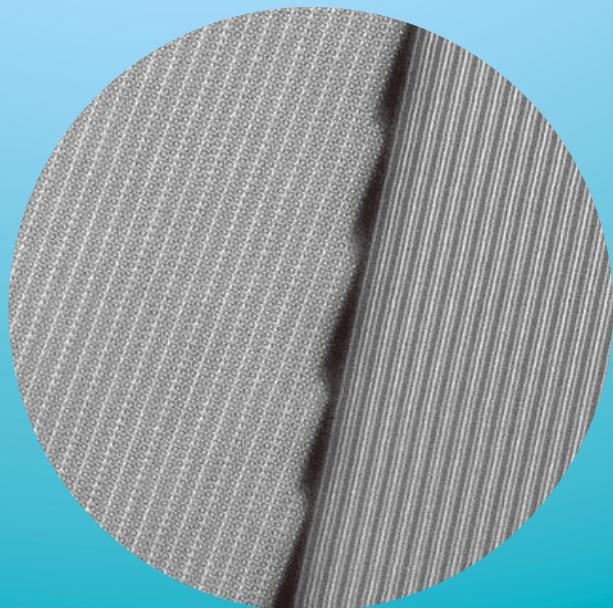


第79期

中間株主通信

2015年4月1日 ~ 2015年9月30日



Contents

株主の皆様へ 1

セグメント別業績の概況 3

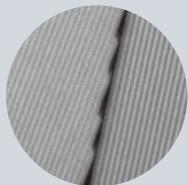
連結業績の推移 4

ニュース&トピックス 5

会社の概況等 6

表紙写真説明

表紙写真は、高性能フェライト磁石の粒子（結晶から成る粒子と粒子の境界面）付近の電子顕微鏡写真です。当社は、微細構造の観察技術をフェライト磁石における焼結工程の設計に反映させることで、フェライト磁石をさらに高性能化し、永久磁石式モーターの高効率化に貢献していきます。



株主の皆様へ



平素は、株主の皆様には格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当中間期の経済情勢・関連業界の動向

当中間期（第2四半期連結累計期間）における世界経済は、先進国を中心とした緩やかな成長が続いたものの、新興国経済の減速が継続し、期間末にかけて先行き不透明感が増大しました。米国は、家計支出に支えられた回復が続きました。アジア地域においては、中国経済が一層減速感を強める中で、他のアジア新興国においても成長ペースが鈍化した状態が続きました。欧州は、全体としては緩やかな回復を続けましたが、資源国経済の悪化が顕著となりました。こうした中、わが国経済は総じて緩やかな回復基調を辿りましたが、輸出・生産面に新興国経済減速の影響が出るなど、一部指標で踊り場感がみられました。

当社グループの関連業界では、自動車は、米国の需

要は堅調に推移しましたが、国内は軽自動車の在庫調整が長引いたほか、中国や新興国の一部地域でも需要が減少しました。鉄鋼は、軽自動車の減産の波及やアジア需給の悪化とそれらに伴う在庫調整を背景に減少が続きました。国内住宅着工は持ち直しましたが、公共投資は減少しました。エレクトロニクス関連では、中国を中心にスマートフォンの需要が伸び悩んだほか、家電は天候不順に伴うエアコンの販売不振等により減少しました。

当中間期の業績

このような状況のもと、当中間期における当社グループの業績は、2014年11月10日付でのWaupaca Foundry, Inc.の連結子会社化等による影響もあり、前年同期に比べ売上収益は、17.0%増の524,970百万円、営業利益は、21,885百万円増の61,581百万円となりました。営業利益の増加は主に、売上総利益の増加に加え、その他の収益として日立ツール株式会社（現 三菱日立ツール株式会社）の発行済株式総数の51%に相当する株式を、三菱マテリアル株式会社に2015年4月1日付で譲渡したこと等により、事業再編等利益29,280百万円を計上したことによるものです。税引前四半期利益は、前年同期比19,774百万円増の60,700百万円、親会社株主に帰属する四半期利益は、前年同期比12,098百万円増の43,773百万円

となりました。

株主の皆様への中間配当については、1株につき13円とさせていただきます。

中期経営計画の完遂に向けて

当社グループは、2015年度（平成28年3月期）を最終年度とする中期経営計画を実行しております。本計画期間中、航空機・エネルギー材料事業の強化のためMMCスーパーアロイ株式会社（現 日立金属MMCスーパーアロイ株式会社）を、また、北米市場において輸送機向け鉄铸件事業を展開するWaupaca Foundry, Inc.を、それぞれ当社の連結子会社とする一方、当社の連結子会社であった日立機材株式会社の全株式を譲渡する等、事業ポートフォリオを大きくシフトしてまいりました。引き続き持続的成長に向けた体制を構築し、強固な経営基盤を確立させるための施策にも取り組み、中期経営計画の完遂をめざしてまいります。

今後とも皆様の変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。

2015年11月

代表執行役
執行役社長

高橋秀明

セグメント別業績の概況

高級金属製品

売上収益

124,343百万円 (前年同期比 **1.3%**減)

セグメント利益

40,212百万円 (前年同期比 **24,398**百万円増)

特殊鋼については、工具鋼は、中国、ASEAN向けが減少しましたが、国内向けは自動車向け金型材が堅調に推移し、また高付加価値品への製品構成シフトが進んだ結果、前年同期並みの水準を確保しました。産業機器材料は、自動車関連材料に一部調整が見られましたが、その他産業部材は海外向けが堅調に推移したため、前年同期並みとなりました。電子材料は、ディスプレイ関連材料はスマートフォンやタブレット端末向けに堅調でしたが、半導体等パッケージ材料が減少し、全体では前年同期を下回りました。航空機関連材料及びエネルギー関連材料については、堅調な需要動向が続いたことに加え、前年度第2四半期から日立金属MMCスーパーアロイ株式会社が連結子会社となったことに伴う業績反映もあり、大幅に増加しました。

ロールについては、各種ロールは輸出の伸長により増加しました。射出成形機用部品は、設備投資需要が堅調に推移し前年同期並みとなりました。

アモルファス金属材料については、主要市場である中国向けの落ち込みにより、前年同期比で減少しました。

(注) セグメント利益40,212百万円には、2015年4月1日付で日立ツール株式会社(現 三菱日立ツール株式会社)の株式を譲渡したことに伴う事業再編等利益25,931百万円が含まれております。

磁性材料

売上収益

62,448百万円 (前年同期比 **8.5%**減)

セグメント利益

4,871百万円 (前年同期比 **2,846**百万円減)

マグネットについては、希土類磁石は、国内外の電動パワーステアリングなどの自動車用電装部品及びスマートフォン関連の需要が堅調に推移したものの、米国及び国内向けハイブリッド自動車において需要調整が継続したことや、FA関連の需要が減少したことから前年同期を下回りました。フェライト磁石は、自動車用電装部品及び家電用部品の需要が国内、海外ともに堅調に推移し増加しました。

軟質磁性材料及びその応用品については、フェライト応用品は太陽光発電用部品向けが減少し、フェライトコアも中国向け需要の減速の影響を受け低調となりました。ファインメットは自動車用電装部品向けの需要減、及びエアコンの生産調整により減少しました。

高級機能部品

売上収益

188,989百万円 (前年同期比 **100.8%**増)

セグメント利益

13,148百万円 (前年同期比 **7,861**百万円増)

自動車用鋳物については、高級ダクタイル鋳鉄製品は、米国を中心とした海外の自動車における旺盛な需要が続き、国内需要も堅調に推移したことから増加しました。耐熱鋳造部品は、期前半に一時的な需要調整があり前年同期比で減少しました。アルミホイールは、国内向け、米国向けともに好調に推移し、前年同期比で増加しました。また、これらに加え、2014年11月からWaupaca Foundry, Inc.が連結子会社となったことに伴う業績反映により、自動車用鋳物全体として、前年同期比で大幅増加となりました。

配管機器については、鋳物継手類は、国内向けの減少を海外向けの増加で補い、全体としては前年同期並みとなりました。ステンレス及びプラスチック配管機器は、国内需要が踊り場にあり、前年同期比で減少しました。

連結業績の推移

電線材料

売上収益

147,582百万円 (前年同期比 **8.5%**減)

セグメント利益

7,345百万円 (前年同期比 **6,344**百万円減)

電線については、事業ポートフォリオ見直しに伴い売上収益が減少しましたが、注力分野である鉄道車両用電線が海外市場向けを中心に好調に推移し、医療用プローブケーブルも堅調でした。国内建設電販向け需要は低調でした。

自動車部品においては、北米を中心に自動車の旺盛な需要が続き、電装部品、ブレーキホースとも好調に推移したため、前年同期比で増加しました。

情報システムについては、通信事業者の設備投資の調整が継続し、ネットワーク機器、ワイヤレスシステムとも低調に推移し、前年同期を下回りました。

その他

売上収益

2,574百万円 (前年同期比 **8.3%**増)

セグメント利益

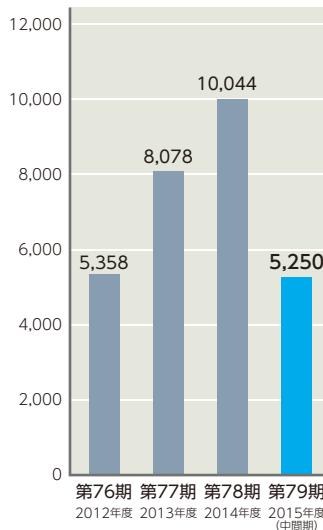
151百万円 (前年同期比 **1**百万円増)

(注1) 各セグメントの売上収益は、セグメント間の内部売上収益を含んでおります。

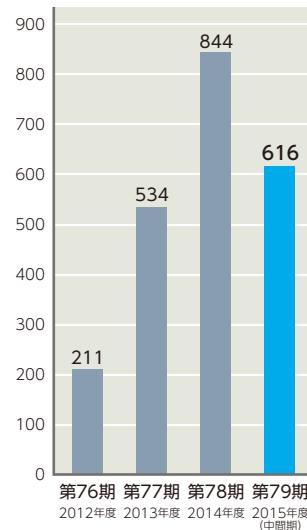
(注2) 2014年度より国際会計基準(IFRS)を適用しております。「連結業績の推移」は、第77~79期はIFRS、第76期は日本基準に基づいております。

(注3) 各セグメントの売上収益構成比の割合は、外部顧客への売上収益を元に算定しております。

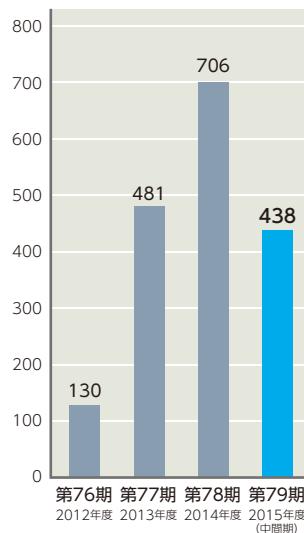
■売上収益 (億円)



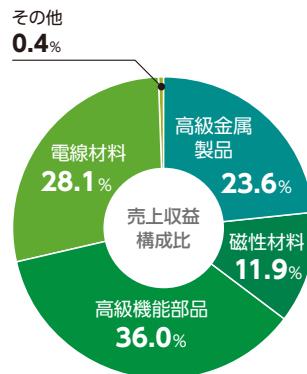
■営業利益 (億円)



■親会社株主に帰属する当期利益 (四半期利益) (億円)



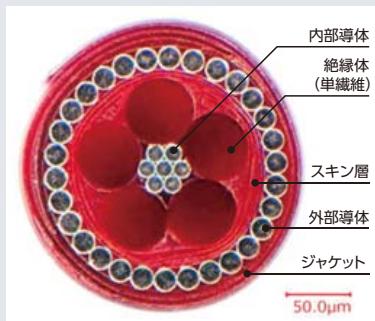
■セグメント別売上収益構成比



低静電容量の医療機器用極細同軸ケーブルを開発

このたび当社は、超音波診断装置や内視鏡などの医療機器のさらなる操作性向上や高画質化に向け、新しい医療機器用極細同軸ケーブルを開発しました。

同軸ケーブルは、内部導体、絶縁体、外部導体、ジャケットから構成された電線で、信号の伝送品質が高く、耐ノイズ性に優れており、医療機器や携帯端末、FA (Factory Automation) など幅広い分野で使用されています。特に



医療用途においては、医療機器操作時の負荷低減や体内に挿入する際の患者の負担軽減のために、

低静電容量の医療機器用極細同軸ケーブルの断面写真

軽量化や細径化が求められています。

近年、超音波診断装置や内視鏡などの医療機器の高性能化により、診断画像もますます高画質化しています。このため、医療機器用同軸ケーブルには、より優れた伝送品質を有する低静電容量で、かつ細径であることのニーズが高まっています。

絶縁体である発泡フッ素樹脂を押し出方式で被覆していたこれまでの構造に対し、このたびの開発品は、単繊維化したフッ素樹脂を絶縁体として内部導体上に撚り合わせる構造となっており、従来の押し出方式では不可能であったさらなる細径化を実現するとともに伝送品質に影響を与える静電容量の低減を実現しました。

本開発品により、超音波診断装置や内視鏡などの医療機器のさらなる操作性向上や高画質化が可能となります。

今後も当社は、医療機器用電線・ケーブルのさらなる製品開発を行い、先端医療の進化に貢献します。

本社移転のお知らせ

このたび当社は、都内に点在している事務所(グループ会社を含む)を集約し、業務効率の向上等を目的として、本社を以下の住所に移転いたします。

【移転時期】2015年12月1日(予定)

【新住所】東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス(23~24階)

上記住所に移転するグループ会社は、次のとおりです。

- 日立金属商事株式会社 (2015年10月~11月)
- 日立金属工具鋼株式会社 (2016年2月(予定))

品川シーズンテラスの外観



会社の概況等

会社の概況 (2015年9月30日現在)

■ 商号	日立金属株式会社 (証券コード:5486)
■ 設立年月日	1956年4月10日
■ 資本金	26,284百万円
■ 従業員数	6,101名

役員 (2015年10月1日現在)

取締役

取締役会長	小西 和幸	取締役	町田 尚
取締役	小島 啓二	取締役	鎌田 淳一
取締役	島田 隆	取締役	高橋 秀明
取締役	中村 豊明	取締役	平木 明敏

(注) 小島啓二、島田隆、中村豊明及び町田尚の4氏は、社外取締役であります。

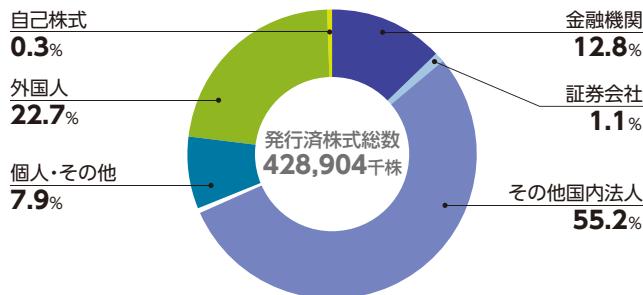
執行役

代表執行役 執行役社長	高橋 秀明	執行役	金谷 史男
代表執行役 執行役常務	平木 明敏	執行役	坂本 康彦
代表執行役 執行役	西家 憲一	執行役	諏訪部 繁和
執行役	相佐 昌司	執行役	瀬尾 武久
執行役	大塚 眞弘	執行役	中野 英治
執行役	岡田 裕之	執行役	長谷川 正人

(注1) 高橋秀明及び平木明敏の両氏は、取締役を兼任しています。

(注2) 瀬尾武久氏は、2015年10月1日付で就任しました。

所有者別株式分布状況 (2015年9月30日現在)



株式の状況 (2015年9月30日現在)

■ 発行済株式の総数	428,904,352株
■ 株主数	27,497名
■ 大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
(株) 日立製作所	226,233	52.9
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	12,397	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	11,913	2.8
ジェーピー モルガン チェース バンク 385078	4,734	1.1
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505225	4,032	0.9
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505223	2,813	0.7
日本生命保険(相)	2,801	0.7
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	2,668	0.6
ピクテ アンド シー ヨーロッパ エスエー	2,650	0.6
エイチエスビーシー バンク ピーエルシー ステート オブ クウェート インベストメント オーストリチー クウェート インベストメント オフィス	2,403	0.6

(注1) 所有比率は、自己株式数(1,322,058株)を控除して計算しております。

(注2) 前期より、複数口座を有する株主における株式数の合算処理はしてありません。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
配当金受領株主確定日	毎年3月末日及び9月末日
定時株主総会の基準日	毎年3月末日
公告方法	電子公告 (http://www.hitachi-metals.co.jp/koukoku/index.html) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株 (2015年7月1日より、1,000株から100株に変更しております。)
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 (日本ビル4階)
郵便物送付先 (連絡先)	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター 電話 0120-49-7009 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。

お知らせ

当社の株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社は、2016年1月12日をもって、次のとおり移転いたします。なお、郵便物送付先及び連絡先につきましては、変更ございません。

東京証券代行株式会社
東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 (神田錦町三丁目ビルディング6階)

■住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

■未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

日立金属株式会社

〒105-8614 東京都港区芝浦一丁目2番1号

【本社移転のお知らせ (P.5) をご参照ください。】

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

株主通信に関するお問い合わせ先
経営企画センター (法務) 電話 (03) 6774-3065



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。